

農業共済新聞 千葉版

掲載号	5 月 2 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	主席研究員 香川 晴彦
題名	市場出荷も直売も OK! ハウス半促成サヤインゲンの優良品種と栽培のポイント	
備考	【表説明】「プロップキング菜豆」の収量と上物率	

【本文】

千葉県におけるサヤインゲンの作付面積は 584ha（全国第 2 位、平成 20 年産「野菜生産出荷統計」）で、県内各地で栽培が行われています。主要な作型は、2 月下旬から 3 月上旬に播種し、5 月上旬から 7 月上旬に収穫する半促成栽培です。この作型での優良品種の選定と普及を目的として、第 57 回千葉県野菜品種審査会が実施され、1 位に「プロップキング菜豆」（（株）サカタのタネ）が、2 位に県内で既に普及している「スーパーステイヤー」（みかど協和（株））が入賞しました。ここでは、1 位に入賞した「プロップキング菜豆」の特徴と栽培のポイントについて紹介します。

「プロップキング菜豆」は発芽率、出芽率とも 80%以上と高く、育苗しやすい品種です。莢長は 15.3cm、莢色は濃緑で、子実部の凸凹はやや大きい傾向にあります。食味はスジがなく、良好です。市場出荷に向く、形状の良い上物の収量は慣行品種と同程度で上物率は 59%です（表）。下物も多く収穫されますが、良食味を活かした直売所での販売が可能です。

播種はポットに 2 粒ずつ播いて発芽後間引くか、セルトレイに 1 粒ずつ播きます。播種直後の地温は高く設定しますが、苗の徒長を防ぐため発芽後は徐々に下げます。草丈 9 cm 前後、本葉 1～2 枚前後の充実した苗を、播種後 20 日以内に定植します。基肥中心の施肥体系で栽培し、追肥としては、窒素成分量で 2～3 kg/10a を開花期後 2～3 回施用します。病虫害防除は、慣行品種と同じで発生初期の防除を中心に効率的な薬剤散布を行います。

「プロップキング菜豆」は、初期収量が多く、莢色が濃く、食味も優れており、市場出荷にも直売にも対応可能な品種です。今後、観光直売型農業の発展とともに、さらに普及することが期待されます。

表「プロップキング菜豆」の収量と上物率

品種名	上物収量 (kg/10a)	下物収量 (kg/10a)	総収量 (kg/10a)	上物率 (%)
プロップキング菜豆	1,220	871	2,091	59
スーパーステイヤー（慣行品種）	1,247	664	1,910	66

注) 3 月 5 日播種、3 月 23 日定植。収穫期間：5 月 5 日～6 月 10 日